



顔が見える関係が 不安や悩みを和らげる!!

文部科学省に設置された「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」が、平成24年3月に報告書を出しています。その中で、『親が子に対して行う教育が家庭教育ですが、家庭内に閉じて行うのではなく、親も子も地域や社会で他者とのつながりや関わり合いを持つことが重要で、それが家庭教育の内容を豊かにし、家庭教育の目的である子供の社会的自立と、親が子育てを通じて自らの人生を豊かにしていくことにつながります。』と述べています。

岩国市では現在、山口県家庭教育支援チームが4つと、市単独の「とどける」家庭教育支援事業として支援員52人(令和5.3現在)が、家庭教育支援にあたっています。本号では、新1年生の生活支援を行いながら、親子の不安や悩みに寄り添う活動を展開している愛宕小学校を紹介します。



①新1年生の生活支援は、どのようにして始まったのですか？

②毎年、1年生の担任の先生が困っておられるのを知り、身近な存在である家庭教育支援員さんに、声をかけました。



地域協育ネット
コーディネーター
平井 真奈美さん

③喜んで聞き入れ、入学式の次の日から、クラスに3人程度入って下さいました。
ランドセルの片付け、給食の準備、トイレのお世話、時には提出物の回収の手伝いまで…

この紙、どうするの？

机の中よ。
片付け、上手じゃね。

子供の様子をとてもよく知っておられます。すごく助かっています。何回もお願いしています。＜担任＞
…気軽にお願いできる人間関係ができています。

お手伝いというより、一緒にやっている感じです。時には怒りもします。子供が大好きなのです。＜支援員＞
…他人事でなく、当事者意識がとても強く、先生や保護者との一体感があります。

家庭教育支援員の 主な活動(支援)内容

- ① 挨拶運動への参加等による子供や家庭(保護者)との顔つなぎ
- ② 参観日等を活用した子育てサロン(相談会)
- ③ 新1年生等を対象にした家庭訪問による情報提供等
- ④ 不登校や登校しぶりの子供に対する登校支援
- ⑤ 子育てに悩みや不安を抱える保護者に対する家庭訪問による相談対応等



家庭教育支援員は、保護者と保護者、保護者と学校や関係機関との大切な「つなぎ役」です。

